

ヒアリングの概要

A氏

- ・時代ごとに増改築・曳家を繰り返している。
- ・日常は比較的新しい増築部で生活している。
- ・新しい増築部と古い部分のジョイントは亀裂が入りやすい。
- ・大阪北部地震では母屋に被害はなかったが、耐震性は心配している。地震より台風の方が頻度も多く、心配している。
- ・保全にはとても費用がかかる。漆喰壁ができる工務店等を市が紹介するような制度があればありがたい。
- ・こうした建物を知ってもらい周辺の方々とのつながりを作るために、イベントに使ってもらったことがあるが、母家には空調はついていない。
- ・見て歩ける古地図を照合したマップや、旧地名の石碑等があればまち歩きが楽しくなり、来街者が増えるのではないか。
- ・高槻城公園と併せて、地域の人に愛着を持ってもらえるようなイベントをしたい。

B氏

- ・改修してテナントを入れた建物で、法人として所有している。
- ・耐震改修により震度6強にも耐える構造としている。
- ・建物を除却して鉄筋コンクリートにするよりも、木造のまま改修して活用する方が、長い目で見れば経済的と考えているが、多くの所有者は知らずに売ってしまっていると考える。
- ・伝統構法は調査だけでも多額の費用がかかるので、住居としてのみ使用している所有者にとっては保全の負担が大きすぎる。
- ・改修に際して、法的に求められる防火性能等の費用を行政が補助する制度があれば、活用されるのではないか。

C氏

- ・かつては通りに面して商売をしていた町家で、家から本丸が見えたと聞いている。
- ・阪神淡路大震災で壁の厚い蔵が倒壊したことから建替えたが、建替えに際し築地塀と庭を設け、真壁造の和風で建てており、周辺景観に寄与していると考える。
- ・家の前のかつての大通りも城下町らしい景観が作られるよう努力していただきたい。
- ・今は建物に関して困っているところはない。

D氏

- ・改修や曳家を何度か行っており、生活に特に不便は感じていない。
- ・水害が多かったため、納屋には避難用の木舟を吊っていた。